書き抜き読書ノート 440	2009 年 12 月 12 日

鎌田茂雄著「華厳の思想」講談社学術文庫 1988 年 5 月 10 日刊を読む

華厳の思想

1．中国、西安(シーアン)市の南に位置する長安県の興教寺(こうきょうじ)へ行く途中、左側の赤茶けた山に、二つの塔が天空に屹立(きつりつ)しているのが見える。この塔こそ華厳宗の開祖・杜順(とじゅん)と、第四祖・澄観(ちょうかん)の墓塔なのである。

2．現在は墓塔があるだけであるが、50 年前までは、唐華厳寺の額をかかげた堂宇や僧坊があり、住持もいたのであるが、現在は雑草がおい茂る丘の上に、塔が立っているだけの荒涼たる風景を呈している。しかし、この場所こそ唐の華厳寺のあった場所であり、中国華厳宗の淵源の地なのである。

3．韓国の全羅南道の智異(ちり)山は山紫水明の山で海抜 1915 メートルある。この美しい山あいにあるのが華厳寺である。華厳寺は新羅の真興王 5 年(544)に、インド僧の縁起(えんぎ)祖師が創建したものといわれている。この寺には『華厳経』の石経(せつきょう)が今なお保存されている。海東華厳宗の開祖である新羅の義湘(ぎしょう) (拙著『新羅仏教史序説』大蔵出版、昭和 63 年、参照)は、華厳の十刹を造ったが、その一つがこの華厳寺なのである。現在、この華厳寺には大雄殿、覚皇殿などの伽藍がたち並び、その偉容を誇っている。中国の華厳寺の衰微と比べて韓国の華厳寺はあまりにも立派なのである。

4．洛陽市の南の伊河のほとりに沿って造営された石窟に竜門石窟がある。この石窟のなかで一きわ目を奪うのが奉先寺の大仏である。伊河の河原に立って 17 メートルあまりの大仏を眺めると、素晴らしいの一語につきる。4 メートルの巨大なお顔は、温顔をたたえて衆生(しゅじょう)を見下ろしている。この奉先寺の毘盧舎那(びるしゃな)仏と、その周りの金剛力士などの諸像こそ唐代の仏教芸術の粋なのである。

5．竜門の大仏は、唐の高宗の咸亨(かんこう) 3 年(672)に造営され、3 年 9 ヵ月の歳月を費やして完成されたものであるが、それから 70 年あまりたって、奈良の東大寺の大仏の開眼供養(かいげんくよう)が行われたのである。東大寺の大仏こそ東アジア世界の仏教文化の終着駅として、日本の古代文化に燦然たる光りを放ったのである。しかもこの東大寺こそ中国の華厳宗がそのまま伝来したものなのである。

6．西安市の華厳寺址を除いて、求礼の智異山華厳寺、善妙(ぜんみょう)伝説で有名な、義湘が創建した太白山浮石寺、そして奈良の東大寺と、東アジア世界には華厳宗の寺院が、今なお絢爛(けんらん)たる偉容を誇ってその命脈を立派に保っているのである。これらの寺々は華厳宗の教えにもとづいて創建されたものであるが、その華厳宗の教えは、インドから中央アジアにかけて成立した『華厳経』に依っているのである。

P3.4

[コメント]

哲学から宗教的実践へと転ぜられたとされる華厳の思想は、どのようにして日本を含む東アジアの世界に長い間にわたって生き続けてきたのだろうか。本書を通じて大いに学びたい。

― 2009 年 12 月 12 日　林明夫記―